

盆踊りの原型とみられる単純素朴な踊り
吉念仏踊(法福寺)

指定区分	県指定重要無形民俗文化財
読みかた	よしねんぶつおどり(ほうふくじ)
所在地	真庭市吉
指定年月日	昭和36年7月25日
解説	8月16日夜に、法福寺本堂の前で行われる単純素朴な踊り。念仏講中の男性で構成される首頭取り、鉦、羯鼓、サイハラ役が、檀家総代が読み上げる供養の唱えごとに踊りを繰り返す。サイハラは長さ1間丸棒の両端に紙を房状に結びつけたもので、かけ声にあわせて2人が打ち合う動作を繰り返す。念仏踊りの様子を伝える貴重なものである。
アクセス方法	JR美作落合駅から約9.6km
公開状況	8月16日、法福寺本堂
設備	
備考	

きつずページ

していくぶん (指定区分)	県指定重要無形民俗文化財
ぶんかざいめい (文化財名)	吉念仏踊(法福寺)
よみかた	よしねんぶつおどり(ほうふくじ)
しょざいち (所在地)	真庭市吉
していつひ (指定した日)	昭和36年7月25日
せつめい	お寺に寄付(きふ)をしている家々の先祖(せんぞ)を供養(くよう)するためのおどりは、単純(たんじゆん)で素朴(そぼく)なものです。代表者(だいひょうしゃ)が念仏(ねんぶつ)を唱(とな)え、かけ声とともにサイハラという90センチの丸棒(まるぼう)を打ち合い、およそ20人の男の人がカネとタイコをたたいて横(よこ)に飛(と)びます。これを2回行って、さらに一家ごとにくり返していきます。盆(ぼん)おどりのもとだったと考(かんが)えられています。